

PTA あきた

～みんなで育てる 秋田の子ども～



2014.12.19 No.126

【発行】秋田県PTA連合会
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
E-mail: pta-akita@helen.ocn.ne.jp
http://www.pta-akita.com

(1)PTAあきた



第40回秋田県PTA研究大会にかほ記念大会 & 第3回秋田県PTAチャリティーフェスタ



ステータス（にかほ）

金浦神楽保存会（金浦）



松本哲也&象潟中学校吹奏楽部

平成26年度 第40回

秋田県PTA研究大会

にかほ記念大会

Nikaho Memory Meet

基調講演

腰塚勇人氏の「命の授業」を拝聴して



この講演の副題は、「今の幸せに気づくことから夢はひろがる」というものでありました。しかし、普段の何気ない生活の中から幸せの種を見つけ、その思いを持ち続

けることは、きっかけが無いと難しいだろうと感じました。

それよりも、私が今回の講演を通して改めて思いを強くしたことは、「人は変わる。変わる。」ということでありました。

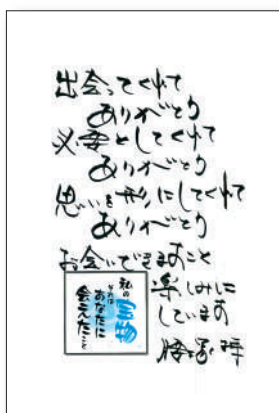
私自身、仕事通して色々な方々と出会い、接することで刺激を受け、自然とその人の良いところ、素晴らしいと思う行動や考えを身に付けようと前向きに取り組む自分に変わったと感じています。

ところで、私が、刺激を受けた方々に共通するものは、「情熱」と「今を楽しもうという前向きな気持ち」。そして、私の経験から。自信を失いそうな今、自分の全てを変えることはできないかもしれないけれど、「変わりたい」と思って行動すれば変わることができると思っています。

そういう子どもたちがいたら、親や回りの大人は、どうか子どもにそのきっかけをつくって欲しいと思います。「子どもは親、大人の背中を見て育つ」きっかけに一番近い存在は、子の親であり、大人であると私は思います。子どもがこの先どのような道を歩むのか。子どもたちが大人になった時、どんな時代を生きるのか。子どもが歳を重ねる過程において、大人の存在と責任はとても大きい。

今大会では、子どもたちによる舞踊、演奏、ダンスなどの演技が沢山披露されました。そして子どもたちが演技するたびに、会場には、大きな拍手がおこりました。その湧き起こる大きな拍手の中で私は思いました。この子どもたちも私達大人に感動と元気を与えてくれる存在であり、「大人自身が変わる。変わろうとする。」きっかけを与えてくれているんだと。

そんなかけがえのない子どもたちの眼に、私は、どうな風に映っているんでしょう。子どもに何かを与えられる存在でいるのしょう



平成26年11月8日(土)～11月9日(日)仁賀保勤労青少年ホームとホテルエクセルキクスにて、県内のPTA会員500余名が参加し、感動と情熱を呼び起こす熱気に満ちた大会となりました。初日は分科会1・2と共通分科会を行い、2日目は腰塚勇人氏の基調講演と開会式そして、第3回日の東日本大震災復興支援秋田県PTAチャリティーフェスタを催しました。その概要を報告します。



か。私も親として、社会の一役を担う大人として、いつまでも子どもたちにきっかけを与えられている、目標となる情熱と前向きな気持ちを持續ける大人でありたいと思う。

講演で、腰塚氏が言った言葉です。

「自分が変わったことで、新しい人生が回りはじめた。そのきっかけくれたのは周りの人だった。そして、子どもは居てくれるだけで人を幸せにしてくれる。そんな子どもたちのためにできることをしてあげたい。」講演を聴く中で、仕事で出会ったある人のこんな言葉を思い出しました。

「夢は口に出す。周りが応援してくれるから。」大人は自らの責任を果たすことが大事だと改めて思う。

にかほ市立金浦中学校PTA副会長 加藤 潤

子どもたちの希望を育てる

秋田県中学校長会会長(秋田市立土崎中学校長)

三條 正弘

「腰塚さんの『命の授業』」を聞きたい。研究大会をご案内いただいたとき、強くその思いがよぎりました。たまたま、今年の卒業式で私はあの『5つの誓い』を卒業生に熱く語りかけたばかりだったので。また、分科会では高野先生の人生観あふれるお話をお聞きすることができましたし、後半のインターネットセーフティのお話は喫緊の課題について生々しく触れることになりました。

そして何よりも圧倒されたのは夜の大情報交換会でした。三百名近くおられたのではないのでしょうか。終始あちらこちらで熱気あふれる対話と笑い声が響いていました。特に、各地区のPTA会長さんたちの若さあふれるパワーに今後の県PTAの明るい展望を感じました。(もっとも、一番パワーを感じたのは加藤会長さんでした。)

子どもたちの希望を育てるのは、学校と保護者のチームだという思いを皆さんと共有でき、とてもうれしく思えたひとときでした。



分科会1

「子どもの元気・活気・勇気を 引き出すコミュニケーション」

講師 綿貫 美也子氏



スポーツ現場で「勇気を与える感動の言葉がけ」を応援したい身近な人に伝えるコミュニケーションスキル「ペップトーク」。

「ペップトーク」とは、短くてわかりやすく、肯定的な激励のメッセージで、次のような会話術である。

「事実がある」。 プロセスとしては、どんな事実でも受け入れる。例えテストで20点取ったとしても受け入れる。

「物の見方」。 大体、足りていないところに目が行くが来ているところに目を向けて今あるもので何が出来るのか捉える。

「してほしい変換」。 してほしいことを伝える。「大事な場面だからミスしないで」を「大事な場面だから一本決めていこう、ねらっていこう」に。

「存在承認」。 ペップトークは結果、行動、存在、このいずれかを承認する。その中で一番大切なのは「いてくれてありがとう」という存在承認が重要である。

「背中の一押しの一言を」。 強豪相手との試合前監督が選手に向かって「まともに戦ったら絶対に負ける。ボールを取られてもあせるな。気持ちで負けたら終わりだ。さあ、思い切り暴れてこい」と言われると、応援しているけれど残念な感じに聞こえてしまう。これを「おまえらの強さを証明するチャンスだ。おまえらしくがっちり守ってワンチャンスをものにしよう。さあ、思い切り暴れてこい」このように、日頃の言葉を換えていただき、最後に背中の一押しを言ってあげるといい。

最後になるが、私が伝えたいのは、ないものではなくて、今あるものに目を向ける。私たち自身が幸せになってそして周りを応援していこう。

分科会2

部活動を通しての生徒指導

講師 高野 豊昭氏



学校で問題を子どもが起こした場合、殆どの場合母親が来る。30分くらい話を聞いていると段々自分の話を誰も聞いてくれないという悶々とした状況を話し始める。父親は子どもが問題を抱えたら真正面から向き合うことが大切だ。失敗したときこそ子どもが親の一生懸命取り組んでいる姿を見て親のすばらしさを感じる大切な機会だ。

気になる事。親が自分の就けなかった仕事をさせたいとがんばると子どもは親のことを考えて自分の選択ができなくなる。加えて子どもの選択を認めない親がいる。進路は小さいときから成長に合わせて話していくことが大切だ。部活動は趣味と同じといえるが、高校や大学の進学時期になると「そんなことをしていれば進学できない」と教師と親から言われ、部活動をやめてうまくいかないことがある。部活動で心のバランスがとれている場合がある。「子」のがんばりを認めて、目的に向かってがんばらせることが大切である。

家庭は社会人になるためのベースを作る場。小さいときは安心感(母のにおい)を与えてベースを作り、中高校生になったら顔を見て話をすることが大切である。モーツァルトのように親の背中を見てその仕事をしたいと思うのはよい作用といえる。

叱るときは功罪がわかって叱ることが大切。親の枠を超えて叱らない、静かに納得させて叱る、時間をおかず瞬時に叱るなど気をつけることがある。ほめるときには親子共々で喜び、ある結果を予測してできたときにほめるとよい。

家庭は社会性・市民性を育てる場。お客さんが来たら挨拶をさせたり、いろいろな場面に連れて行ったりすることも大切だ。前へ前へと進んで子どもと共に歩める親っていいなと思った。子どもの一番の応援団長は親である。いつまでも一番の応援団長に!!

共通分科会

大人が支える! インターネットセーフティの推進

講師 県教育庁生涯学習課

子どもたちのスマホの使用法における、発信参加型のネットデビューが低年齢化、隠れネット機器のネット利用、無料のコミュニケーションアプリの人気、さらにネット内のいじめ、などについて、実際に2台の機器を使いその実態や安全な活用と小さなトラブルで押さえる歯止めはどこにあるか。また、願わくば最初の防波堤の役割を保護者に担ってほしいし、相談しやすい親子関係であってほしい。そのための必要な知識として、次の説明があった。

- 1 顔写真や学校名、連絡先などの情報は、自分のものも友達のものものせない。
- 2 嘘をついて近づいてくる悪い人もいるので、ネット上では相談や打ち明け話はしない。
- 3 ネットでのやり取りは伝わりにくいもの。相手の理解を求め過ぎず、余裕をもつ。
- 4 ネット利用でトラブルに遭ったら、隠さず、速やかに周囲の大人に相談する

回想と御礼

秋田県PTA研究大会 にかほ記念大会実行委員会

副実行委員長 齋 藤 聡

11月8日は、分科会1、分科会2、共通分科会、いずれの会場とも時間をオーバーするほどの盛況ぶりでした。その後の情報交換会はケース&マサのミニコンサート、次期開催地の横手市PTAのゆるい?PRもあり、楽しく、賑やかな会となりました。11月9日は開会行事に続いて、腰塚勇人先生による基調講演では、改めて命の大切さと当たり前であることが実はとても幸せなことだと感じる機会となりました。閉会行事終了後、今年度は3回目にして初めて県研究大会と併催されたPTAチャリティーフェスタが開催されました。終了が予定より1時間以上オーバーしましたが、子どもたちと松本哲也氏の熱演に免じてお許し願いたいと思います。今大会が成功裡に終わることが出来たのは、秋田県PTA会員一人ひとりが作り上げた結果です。が、今大会の本当の成功は、今大会で得た気づきや発見、色々な人々との出会いをそれぞれの地域のPTA活動に活かし、ひいては子どもたちの幸せに結びつけることだと思います。

皆様の地域でのご活躍を祈念いたしまして御礼の言葉と致します。

第46回

東北ブロックPTA研究大会盛岡大会

～希望郷いわてで語り合おう!未来を創造するこどもたちの“ゆめ”を“ところ”をそして“つながり”を～

9月6日～7日の2日間盛岡市を会場に大会が開催されました。一日目は7会場で分科会が開催され、二日目は東北PTA連絡協議会会長表彰と記念講演チベット音楽家バイヤー・ヤンジンさんによる「子どもの心と家族の愛」と題した記念講演が行われました。秋田県から81名が参加し、PTA研修を深めました。一部を報告します。

::: 研修活動=コミュニケーションづくり

仙北市立生保内小学校PTA会長 田口 寿宜



私は今回、研修活動をテーマにした第2分科会にパネリストとして参加をさせていただきました。パネリスト初体験、しかもこれと言って特別な研修活動をしている学校でもないのに、何としよう…と思いつながらの参加でした。

私自身、普段のPTA活動が研修の場であるという考えを持っています。子どもを通じて出会った皆さんと、子ども達が安全・安心に楽しく学校生活を過ごせるよう、色々な活動を展開する中で、子ども・保護者同士・先生方との繋がりが深まり、更には地域との繋がりにも結び付いて行くものと思っています。研修活動(普段の活動)は言わばコミュニケーションづくりの場、ここ数年希薄になりがちだと言われる人と人との繋がりを構築する大切なツールの一つであると思います。講師の先生の講演、他のパネリストのお話からも「コミュニケーション」という言葉がキーワードになり、この分科会は進んで行きました。

肩肘張って何か研修活動をしなればと思うと、なかなか上手く行かないものです。普段の活動を今一度見つめ直し、コミュニケーションづくりをして行きましょう。

::: 子どものたちのために

美郷町立仙南小学校PTA副会長 加藤 克衛



青春真っただ中、成長期で多感な時期の中学生の家庭、家庭の役割と中学校教育をどうしていけば良いのか。東北ブロックPTA研究大会盛岡大会で「家庭と中学校教育」というテーマの第5分科会へパネリストとして参加させていただきました。

基調講演は、岩手県教育委員長の八重樫先生。「中学生のがんばり、大人のあと押し」という内容で、中学生たちは大震災を乗り越えたくましく生きようと頑張っている。

我が子、我が町の子を「誇り」と言い切れる親・地域でありたい。色々な事例を出され、二百名を超える参加者の方々、涙あり笑いありのとても楽しい講演でした。

パネルディスカッションでは、家庭教育は社会のスタート、基本的生活習慣を確立し、自立して社会に出られるようにする。

学校は、どの子にも出番を与え、子どもの微妙な変化に気づき、アドバイスをでき、願いをかなえるところである。学校には、一目置かれる存在で、大人を敬う教育を。学校と家庭の連携。保護者は「文句を言う」ではなく、協力・質問・要求というスタンスで対応する。活発な討議がかわされました。

親として、子どもたちから喜びを得ることが多く、またもらうパワーも大きい。

親と子、先生と生徒、先生と保護者、相手に興味を持ってきちんと話し合い、つながって、子どもたちに「背中語る大人たち」でありたいと思います。

皆さん 頑張るべ!

::: 現状に満足せずにさらなる向上を!

北秋田市立合川北小学校PTA会長 伊勢 博文

東北ブロックPTA研究大会全体会の中で、東北PTA連絡協議会会長から、表彰状をいただき身にあまる光栄でした。さて、今大会の全体会の記念講演は、チベット音楽家バイヤー・ヤンジンさんのお話でした。ヤンジンさんはチベットに生まれ、家族・親族のほとんどが、文字の読み書きが出来ない環境に育ちましたが、中国の四川音楽大学に入学しました。しかし、そこでは民族の違いから差別やいじめに合いながらも、大変な努力の末に卒業しました。

その後、日本人と結婚し、現在はチベット音楽家として活躍されております。

ヤンジンさんが、日本に来て感じた事は、「チベットでは学校がないために、文字の読み書きが出来ない人が沢山いるのに、日本ではすべての人が当然のように教育を受けていると言う事です。」そこが、チベットと日本の大きな違いと思い、現在は故郷のチベットに学校の建設を行っております。

私たちは、子ども達が良い教育を受ける環境を整えては行けません。

そのためには、PTAが存在し、PTA活動が活発であることが、私たちの責任であると考えます。



::: 第5分科会から

にかほ市立仁賀保中学校PTA会長 須藤 智子

山並みと川の流れが美しい盛岡の街にはすばらしい文化施設が数多くあり、私はそのうちのひとつ、盛岡市民文化ホールで行われた第5分科会に参加いたしました。

第5分科会では、岩手県教育委員会委員長の八重樫勝先生の基調講演が行われ、子どもが活躍するために私たち大人はどうあるべきかを、ユーモアたっぷりに、そして時にはほろりとさせながらお話し下さいました。

先生の講演のなかで一番感じたことは、「子どもたちは実によく大人を見ている」という事でした。子どもは大人の背中を見て様々な事を学んでいます。もし、子どもに夢や希望を実現してほしいと願うならば、まず大人が手本を示して行かなければならず、先生は具体的に、子どもに勉強をしろというのなら、親も勉強し努力する姿をみせるべきである、とおっしゃっていました。

今回は、日頃あれこれと子どもに言いつけるばかりの私には耳の痛いお話しの数々でしたが、反省すると同時に、「子どものがんばりを支えるために、まずは言葉より行動で示さなければ」と気持ちを新たにしたい一日でした。

第62回

日本PTA全国研究大会長崎大会

第62回日本PTA全国研究大会長崎大会は8月22日(金)23日(土)「異国情緒豊かな長崎で集い、語らい、学び合い」のスローガンで開催され、8千人を超える全国のPTA会員が集い、一日目は長崎県内各地で10分科会を行い、二日目は長崎県立総合体育館で全体会を行った。大会宣言として、PTA活動の原点に立ち返り子どもたちの健全な育成にむけての取り組みを決議した。



「がんばらんば」

秋田市立勝平小学校PTA会長 遠藤 広之

「見たい知りたい参加したいつなぐ広報考えたい」をテーマとした第4分科会(広報活動)に参加しました。

PTA活動を伝える広報活動の一つとして、広報紙がありますが、活動への理解、協力にまで繋がっているとは言い難い現状をどう打破すべきか、解決の糸口になるのでは?と思い、数ある分科会の中から選択しました。

基調講演者は、ジャパネットたかた代表取締役の高田明氏でした。広報紙への取組姿勢を体験談とユーモアを交えながら講演頂き、大変参考となりました。その中で、現代社会において能力不足とされる「Face To Face」のコミュニケーションを意識した紙面作り、どういう目的でどういう人に伝えたいのかというターゲットの明確化、楽しく伝える、分かりやすく伝える、伝えた「つもり」に注意する、など数多くの提言がありました。

「見出しで心を掴み」手に取って読んでもらえることを優先、というパネルディスカッションでの提言、ごくシンプルな問題に非常に難しさを感じました。

また、討議の中で『作るのはくお知らせ型』に終始した「学校新聞」「学校便り」ではない。しっかりとした問題意識を持つことが求められる』という言葉が重くのしかかりました。確かに正論ですが、総務広報部員にそこまでのスペシャリストを要求期待して良いのだろうか?負担を掛けても良いのだろうか?そういった意識を持って取り組んでもらうための動機付けをどうすべきだろうか?頭の痛い問題です。

PTA活動に携わる会員の多くには、『「どうせ」やるならたのしくたのしく』をモットーに活動して欲しいと願っている反面、『「どうせ」引き受けるからには、責任感をもって頂きたいというのも本音もあり、その無理強いがPTA離れに繋がっている要因の一つであるとも感じております。

今大会の講演会とパネルディスカッションを通じて多くの「学び」「気づき」がありました。会員相互の意識を高めるべく、この貴重な体験を留めるのではなくどう伝達し、一人一役の中で後任へどう継承していくべか、課せられた課題の多さを痛感した大会でした。

長崎大会に参加して

八郎潟町立八郎潟小学校PTA会長 森川 洋平

長崎といえば『カステラ・チャンポン・福山雅治』これぐらいの知識しかなく参加したPTA全国研究大会長崎大会でしたが、初参加の私は予想以上に刺激のある充実した研究大会でした。

私の参加した分科会は(株)ジャパネットたかた社長の高田明氏による「広報活動のありかた」についての基調講演でした。テレビでおなじみのハイトーンボイス、ユーモアあふれる講話のなかにも今後のPTA活動において大変参考になった分科会でした。

保護者のPTA活動への関心が薄れ、事業への参加も少なくなりつつある今、従来の情報発信では保護者の協力を得ることが困難になってきています。高田社長は「繰り返しPRすることも大事だが保護者がより興味を持つような広報が大事だ。」と話されました。ペーパーだけの広報から脱却して保護者どうしのつながりを大切にしたいPTA活動が出来るように努力していきたいと思います。

今回このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

ちなみに長崎県民に聞いた「秋田県といえば」は『ナマハゲ・きりたんぼ・佐々木希』だそうです。



平成26年度 表彰一覧

平成26年度公益社団法人
日本PTA全国協議会会長表彰

■団体表彰

大潟村立大潟中学校PTA(会長 金 洋治)
羽後町立羽後中学校PTA(会長 小野 要)

■個人表彰

畠山 耕(県P連 副会長)
菊地 政明(県P連 副会長)
佐藤 学(県P連 副会長)
石澤美沙子
(県PTA研究大会にかほ記念大会実行委員長)

平成26年度東北PTA
連絡協議会会長表彰

■団体表彰

鹿角市立尾去沢小学校PTA(会長 小林政宏)
大潟村立大潟中学校PTA(会長 金 洋治)

男鹿市立野石小学校PTA(会長 渡部玉緒)
秋田市立大住小学校PTA(会長 阿部隆志)
秋田市立城東中学校PTA(会長 益子和秀)

■個人表彰

伊勢 博文 大館・北秋田PTA連合会前会長
戸松 郁子 能代市山本PTA連合会副会長
小林 祥子 秋田県PTA連合会元副会長
嵯峨 康弘 秋田県PTA連合会前幹事
山本 啓彦 仙北市立角館中学校PTA元会長
高橋 和宏 横手市PTA連合会前会長
備前 博和 湯沢雄勝PTA連合会前会長

平成26年度秋田県三行詩
コンクール入賞者

■小学校の部

由利本荘市立由利小学校5年 卯野みなみ
秋田市立川尻小学校3年 高橋 想
由利本荘市立由利小学校1年 木内 結夢

由利本荘市立由利小学校2年
秋田市立外旭川小学校2年

■中学校の部

にかほ市立象潟中学校2年
横手市立横手北中学校3年
にかほ市立象潟中学校2年
にかほ市立象潟中学校1年
にかほ市立象潟中学校2年

■一般の部

横手市立横手北中学校PTA
湯沢市立湯沢西小学校PTA
横手市立横手北中学校PTA
横手市立横手南小学校PTA
横手市立横手北中学校PTA

■団体特別賞

にかほ市立象潟中学校
横手市立横手北中学校
由利本荘市立由利小学校

高橋 桜
檜山八千流

近藤 皓介
畑 瑛太郎
齋藤 光将
佐々木彩花
土田 龍雅

高階 睦子
樋渡 市子
櫻田 寛子
岩佐有希子
石井登志子

平成26年度 優良PTA文部科学大臣表彰

未来への架け橋

由利本荘市立鳥海中学校PTA会長 佐藤 吉 則



本校は、平成11年4月、3校が統合し、鳥海中学校として開校されました。16年目を迎え、前PTA会員・先生方・地域の皆様の協力を得て受け継がれ継続してきた証しとしてこの度“優良PTA文部科学大臣表彰”を受賞いたしました。「地域の皆様ありがとうございました。まんづえがったな。」

PTAでは、子ども達に「ふるさとを愛する心」「命の大切さとたくましく生きていく力」を育む活動として取り組んできました。

各学年親子体験学習では、1年生は、由利高原や獅子ヶ鼻湿原探索。2年生は、霊峰鳥海山の登山を行います。高山植物・日本海や男鹿半島を眼下に見渡した時の感動は、必ずや思い出が力になり、「生きる力」に繋がると思います。3年生は、ふるさとの川下り体験として、約6kmのコースで豊かな自然の中をゴムボートで下る景色は、ふるさとを見つめ直す機械でもありました。安全対策に時間のかかる行事ですが、地元山岳会の方・先生方・PTA会員の協力なくては継続できない事業です。又、高齢者宅の除雪ボランティア活動、親子・先生とのPTA講演会、学校の環境整備、鳥海地域全戸へのPTA会報を発行しています。

子ども達の豊かな心の育成に努め、“あたりまえ”と思っていた活動が評価いただきました。地域との連携を保つために私たちPTAが中心的役割を果たし、学校・家庭・地域の架け橋として協力し、一人一役の目標を掲げ取り組んでいきたいと考えております。これまでのご協力・ご支援ありがとうございました。



受賞の慶び

三種町立下岩川小学校PTA会長 石井 忍



この度、栄誉ある優良PTA文部科学大臣表彰をいただくことができ、地域を挙げてこの受賞を慶んでおります。

下岩川小学校PTAは、昭和23年に設立して以来、これまでの諸先輩方のご功績の積み上げと、地域の皆様のご協力により、学校との太い絆を築くことができたことで、今回の文部科学大臣表彰を受賞することができました。これまでの諸先輩方、そして地域の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

表彰式は、公益社団法人日本PTA全国協議会の主催により、11月19日に東京都のホテルニューオータニで行われ、全国から個人、団体の受賞者約400名が集まり盛大に行われました。これまで経験したことのない規模、そして昭和30年から約60年間続く歴史ある表彰式の雰囲気、驚きと感動、そしてあらためて受賞の重さを実感しました。

下岩川小学校PTAは、学校と家庭、地域がそれぞれの役割と責任を果たし、一つの家族のような温かく深い関係にあります。何か行事があれば地域から沢山の方々が集まり、色々と手を貸してくれます。今年度は、これまでの活動に加え新たに交通安全パレードを行い地域の方々と一緒に地域内を行進し、また読売新聞社特別編集委員の橋本五郎様を招き、お話を聞く会&だまこ鍋を食べる会を行いました。いずれも学校と家庭、地域が協力し合い大成功となりました。学校に対する地域の協力体制と地域力の大きさに感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも今回の受賞を励みに、子どもたちが伸び伸びと地域の方々とふれあい、そして地域を愛し、大きく成長できるよう活動していきたいと思っています。

関係者の皆様、本当にありがとうございました。今後ともご指導ご協力をよろしくお願いいたします。



第36回全国小・中学校広報紙コンクール入賞

平成26年度 日本PTA全国協議会主催の第36回全国小・中学校PTA広報紙コンクールにおいて、次の2校が入賞しました。

企画賞 秋田市立勝平中学校PTA「松 籙」

佳作 秋田市立勝平小学校PTA「かつひら通信」



秋田市立勝平中学校に聞く

- 1 編集にあたって気を付けていることは。
◇PTA会報であることをふまえて、活動報告、予告を心がけています。形ばかりの記事にならないよう写真とのバランスを考えています。
- 2 編集分担や引継ぎはどのようにしておりますか
◇編集分担は学年毎に行事、各専門部を担当します。引継ぎは編集計画及び日程表をデータ化して活用しています。

秋田市立勝平小学校に聞く

- 1 編集にあたって気を付けていることは。
◇『読んでみたい』また『読んでもらいたい』PTA会報のために、親視線でのPTA活動をお伝えできるよう作成してきました。
- 2 編集分担や引継ぎはどのようにしておりますか
◇一人ひとりが役割を持ち、編集者として記事を担当することで、様々な目線でスムーズに会報を作ることができました。

平成26年度 みんなで育てるふれあい事業 報告

「ふるさと米代川との出会い」

北秋田市立鷹巣東小学校PTA 会長 藤嶋 匡祥

学校の真ん前には、秋田県第2位の長さを誇る米代川が流れています。そんな故郷の自然に、親子で触れ合うことを目的とした活動が、「ふるさと米代川との出会い」です。

この事業のメインは、親子でのいかに下りです。そのために、いかに作製や当日のパトロールなど、学校や関係諸機関と連携を図って準備を進めました。当日は、たくさんの保護者・地域の皆さんの参加がありましたが、残念ながら急な雷雨に遭遇し、中止となってしまったことが心残りです。

親子で別の活動ができないかと考え、代替として6年生の親子森吉登山を実施することになりました。NPO法人「冒険の鍵クーン」にガイドをお願いし、親子で協力できるよう親子グループで登ったのですが、たくさんの会話、協力の姿を見ることができ、成功裏に終了することができました。

来年はいかに下りと共に登山もできないか…と欲張りなことを考えている私達です。

今年度から始まったPTA活性化を目的とした補助事業「みんなで育てるふれあい事業」を利用し、既に終了した3校のPTA活動を紹介します。



被災地宮城県気仙沼市との交流活動を通して

大仙市立中仙中学校PTA 会長 佐々木 喜清

昨年度に引き続き今年度も宮城県気仙沼市との交流活動を行った。今年度は、気仙沼市に出向いての活動だけではなく、昨年度から交流をしている気仙沼市立小原木中学校の全校生徒28名を中仙中学校に招いての活動も行った。小原木中学校は今年度で閉校することもあり両校にとってとても思い出深い交流活動になったと考える。

今回の交流活動では、被災地の中学生とふれあい、心のつながりをもつという目的を達成するために、両校生徒が計画段階から主体的に企画・立案に関わってきたと聞く。

PTAとしては、今回の活動を広く保護者・地域の方々に知ってもらい多くの方々に参観いただけるように、学校と協力しながら啓蒙活動を行った。当日は平日ということもあり決して多くの参観ではなかったが、一連の活動を通して、子どもたちが人を支えることの尊さや思いやりの心が一層醸成されたことを感じる事ができた一日であった。



岩谷・大甕子育て交流会

由利本荘市立岩谷小学校PTA 会長 高野 翼

東日本大震災以降交流のある南相馬市大甕小の子どもたちとふるさととのよさを交流し合うことで、将来の生き方の素地を培う活動を行っていきたいと考え標記交流会を実施した。

◇実施期日 平成26年8月2日～3日

◇内容 「交流と慰霊の灯籠づくりおよび灯籠流し」「ふるさとおもしろ紹介クイズ」

「岩谷&大甕ふるさと学習会」「スポーツ（サッカー）交流会」

活動の交流によって両団体関係者がテーマに対して感じ取った感想をとりまとめ、文集冊子を記念に編集し発行した。相手のふるさとや異文化を受け入れる温かな心を持ち、自分のふるさとを誇りに思えるきっかけとなる活動になったと思う。また、8月2日本荘花火大会において、商工観光振興課の計らいにより灯籠流しを行った。子どもたちが灯籠に両団体の絆と本活動の趣旨を表現できたと思う。



岩谷・大甕子育て交流会



東日本大震災復興支援

第3回 秋田県PTAチャリティフェスタinにかほ

H26.11.9 仁賀保勤労青少年ホーム



YSSB吉田小学校スクールバンド



カウベルズ



ステータス



カウベルズ



金浦神楽保存会



象潟中吹奏楽部

チャリティー
募金額
34,752円

秋田県秋田県PTA安全互助会から

- ✓ 完治した後の請求書、申告書を出し忘れていませんか？
- ✓ スポーツ少年団でのケガも対象になります。
- ✓ 受傷した場合はすぐに学校へお知らせください。

保険請求の流れ

① 事故発生 → 学校へ連絡

② 事故発生通知書作成
→ 安全互助会へ送付

③ 完治後、請求書・申告書を作成し、
学校証明印をもらう

④ 保険会社へ送付

⑤ 保険金の振り込み **支払い手続き完了**



日新火災



お客さまひとりひとりと、
顔の見えるおつきあい。

日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔の見えるおつきあい」で、
お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。

お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して

秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社

日新火災海上保険株式会社

秋田サービス支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255